

歴史散策MAP

えん どう こ
頼朝と遠洞湖の伝承地を巡る

中野・小布施エリア



【問い合わせ】
千曲川北信5市町かわまちづくり推進協議会
事務局／飯山市道路河川課
TEL／0269-67-0737



長野県地域発元気づくり支援金活用事業

- ① 岩船地蔵
- ② 船繋ぎ石
- ③ 高井船着神社と船繋ぎ石
- ④ 大熊の飯盛松
- ⑤ 桜沢南端の船繋ぎ石
- ⑥ 千曲川通船の模型
- ⑦ 大嶋神社の岩船地蔵と水難絵馬
- ⑧ 仕事の割り振り脛石
- ⑨ ⑩ 立ヶ花船橋跡
- ⑪ 千曲川通船文学碑

走行距離

27km

標高差

47m

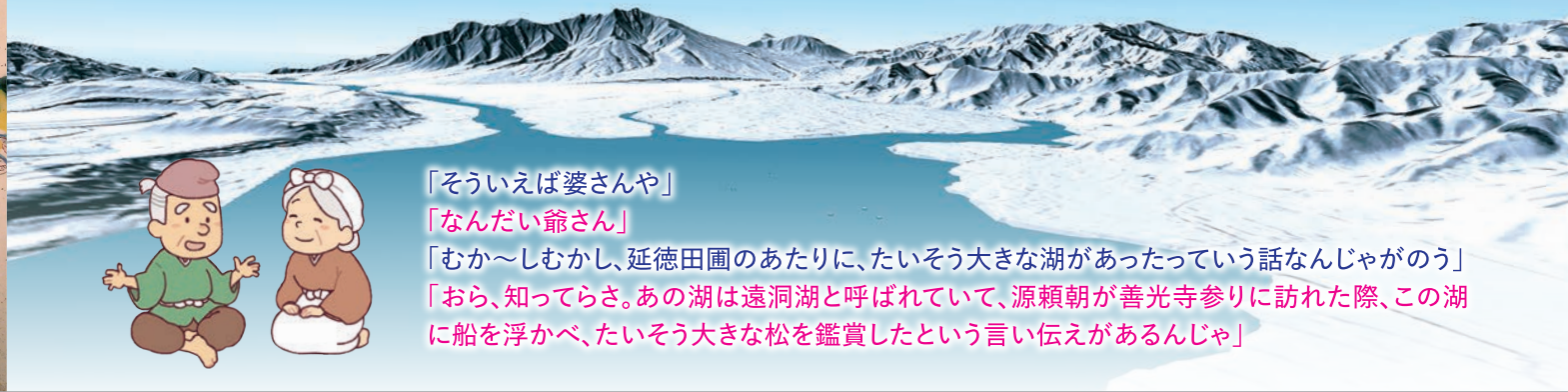


遠洞湖の湖畔を
イメージしてみよう。
サイクリングが
もっと楽しくなるよ

①～⑪のQRコードを
読み込むと位置情報が
ゲット出来るよ



古の時代、このような湖があったのだろうか？



「そういえば婆さんや」
「なんだい爺さん」
「むか～しむかし、延徳田圃のあたりに、たいそう大きな湖があったっていう話なんじゃがのう」
「おら、知ってらさ。あの湖は遠洞湖と呼ばれていて、源頼朝が善光寺参りに訪れた際、この湖に船を浮かべ、たいそう大きな松を鑑賞したという言い伝えがあるんじゃ」

1 岩船地蔵



千曲川の大洪水の際、水中より5色の雲が立ち込め、その中から船に乗った老僧が現れ、「船に乗った地蔵を安置するように」と告げたそうです。

岩船地蔵は靈験著しく、遠方より大勢の人々が来るようになり仏法昌隆の地となりました。



2 船繋ぎ石



小布施町と中野市の間にあったと言われている船繋ぎ石です。湖が消えてからは、もっぱら境界石としての役割を果たしていましたが、中野市役所(旧庁舎)の建設の際、庁舎前に移転されました。



3 高井船着神社と船繋ぎ石



建久八年(1197)に源頼朝が草津を経て善光寺参りをしたおり、ここから船に乗ったという言い伝えのある神社です。

神社の裏側(西側)には船繋ぎ石があります。



7 大嶋神社の岩船地蔵と水難絵馬



岩船地蔵



水難絵馬

樹齢550年を数える大櫨の森にたたずむ大嶋神社には、岩船地蔵が安置されています。

また、明治30年の洪水の際、船が転覆し、九死に一生をえた10人が、神のご加護があったと喜んで大嶋神社に奉納した県内でも非常に珍しい水難の絵馬も飾られています。



4 大熊の飯盛松

大熊の上の仙化山に「飯盛松」という見事な松がありました。頼朝は、遠洞湖からこの松を眺めたと言われています。

飯盛松は、大日本老樹名木誌に記載されるほどの大きな松でした。

マツ科マツ属
3-B アカマツの巨木(赤松) Pinus densiflora
3-B-a 枯れたアカマツの巨木

巨木名称	幹 周	樹高	所在地
延喜の松 写真 AM-001	11.0m	50m	神奈川県大和市 深見 深見神社
延喜の松(二代目) 写真 AM-002	8.0m	40m	〃
飯盛松 写真 AM-003	6.75m	40m	長野県中野市 大熊区
大原の赤松 写真 AM-004	6.65m	25m	岩手県大東町
浅利の御座松 写真 AM-005	7.0m	不明	山梨県大月市
横手の駒の松 写真 AM-006	5.0m	11m	山梨県北巨摩郡 白洲町横手

写真 AM-003 飯盛松(いいもりまつ)
(写真・大日本老樹名木誌)

□日名の境松
 ○北陸一の松
 □大原の赤松
 □延喜の松
 □浅利の御座松
 ○真鶴半島の黒松
 ○舞鶴松
 □横手の駒の松
 ○千手の松
 ○勝楽寺の松
 ○御猿塚の松
 ○鳴門の根上り松
 ○伊後の大松
 ○唐崎の松(二代)
 ☆西東のゴヨウマツ
 ○波岐神社の千年松
 ○宇龍の松
 ○都野津の人麻呂松
 ○枯れたクロマツの巨木
 □枯れたアカマツの巨木
 ☆枯れたゴヨウマツの巨木
 ●現役のクロマツの巨木
 ■現役のアカマツの巨木
 ★現役のゴヨウマツの巨木

5 桜沢南端の船繋ぎ石



「遠洞湖」が存在した頃、大きな石に船を繋いだと言われている石のあった跡地に建てられた碑です。そののち湖が干上がっても、そのまま保存され江戸時代に至り、築堤紛争の解決際の基準として役立ってきましたが、中野市役所(旧庁舎)の新築を祝って庁舎の前庭に移されています。



6 千曲川通船の模型

歴史民俗資料館



古の時代、千曲川には、物や人をはこぶ船が往来していました。江戸時代の通船概要図を基本に、通船写真や船大工からの聞き取り調査等を参考に復元された模型です。



9 立ヶ花船橋跡



立ヶ花には渡しに関する多くの碑があります。立ヶ花の兩岸に点在するこれらの碑は、陸や川の交通の要所としての役割を果たしてきた千曲川の渡しの歴史を顧みることが出来ます。



11 千曲川通船文学碑

藤村も乗った蟹沢の船着場

寛政2年に始めた西大滝から須坂市福島までの「千曲川通船」は、関田山脈の11の峠を越えて飯山に運ばれた越後の塩・米・菜種・杉材などの荷物を運搬していました。

明治34年になると、「飯山旅客便船株式会社」を設立し、千曲川を往来する人を乗せる川船の運行を始めました。

[江戸時代の通船]
飯山市西大滝～須坂市福島間

[明治時代の通船(旅客便)]
長野市蟹沢港～飯山港間



島崎藤村 文学碑

